

ジェイムズ・ホッグ

4 ギルマンの溪谷

ある旧家にまつわる物語

- ペギー おまえは金をどこにやった
新年に手に入れたあの金を
おまえがきれいな服を着てくれるかと
毎日心待ちにしていたが
- スカートも帽子もガウンも 5
新調しやしない
娘よ あの金をどこにやった
何か悪いことでもなきやいいが
- お父さん 私のお金は私のもものよ
いつだって自由に使うわ 10
必要になった時には
いつだって取り戻せるのよ
- 友達にやったのか
悪い奴に貸したのか
まさか恋人に騙されて渡したのか 15
ひどい目に遭っていなけりゃいいが
- お友達にあげたりしてないわ
悪い人に貸したりしてないわ
お父さんの知らぬ恋人に
騙されることなどありません 20
- あれは可哀そうなおじいさんにあげました
戸口の前で震えていたの
可哀そうな身の上話を聞いたとき
もっとあげられたらいいのにと思ったわ
- ペギーよ それはどんな話だ 25
すっかり話してごらん
お前からなけなしの金を巻き上げた
そのずるい奴の話を聞かせておくれ

おじいさんの髪はアザミの綿毛のようにぼさぼさで
頬はタイムの葉のようにしわしわで 30
あご髭は霜が降りたヒースの茂みのように
白くきらきらしていました

おじいさんは疲れた眼をあげました
若いころには幸せな思いもしたでしょうに 35
そしてしょっぱい涙を流しながら
大きなため息をつきました

おじいさんは私の手を取って言いました
嬉しそうに微笑みながら
「幸せにおなり 可憐な花よ
広い荒野に咲く 可憐な花よ 40

「長いことわしを苦しめ
わしから金銀財宝を奪い
友や家族まで奪った
あんな不幸な目に遭いませぬように

「崖の下の ギルマンの渓谷に 45
わしの祖先は長いこと暮らしていた
勇敢なバックロー卿の右腕として
他国からくる敵を蹴散らした

「けちな盗人どもを
従わせ 50
タシローの一味にも
略奪を許しはしなかった

「しかし木々が色づき
この上なく美しくなったとき
突風がすべての花をなぎ倒した 55
ギルマンの渓谷の美しさはもう過去のもの

「弟はたくましく身のこなしも軽いが
気性は荒く頑固だった
たった一人の妹は若く美しく
可愛いジーンと呼ばれていた 60

「輝く髪は金糸のようで
頬はバラ色
城の上を飛び 狩りをする
鷹のような目をしていた

「あんなに美しい娘はいやしない
小高いギルマンの丘で
冬の嵐に舞い上がる
雪のように白い肌

「意地悪に顔をしかめることもなく
歯は象牙のように白く
唇はベイリーの草地に咲く
可憐な花のように紅^{あか}かった

「美しさは不幸の元と
先人たちはよく言ったもの
ハーデンの若者ジョックが妹を裏切り
わしらをひどく悲しませた

「弟のアダムは嵐のように
怒り狂って誓いをたてた
愛する妹の名誉を守るか
さもなくば裏切り者は血祭りだと

「ジョックというのは真っ直ぐな男
奴の誠実さを疑うことなどなかった
ただ 七人兄弟の末っ子で
結婚するには早すぎた

「六月が丘を緑に染め
森の木々が芽吹くころ
若鹿が丘を駆け回り
子羊が草原にたわむれるころ

「わしらの山から羊飼いが降りてきた
ああ 羊飼いに禍あれ
『ご主人様 お急ぎください
急いでどうぞ一緒に

『谷から羊が追い払われています

子羊は蹴散らされ
エルドンの丘で屈指の鹿たちが
ハーデン家のジョックの餌食になっています 95

『ジョックの猟犬がご主人様の森でほえたてて
多くの鹿が殺されています
鹿の群れはダグラスの岩山に逃げ
もう戻りはしないでしょう 100

『勇敢なアダム様に
丘の斜面でお知らせすると
アダム様はヤローの堤へ
全速力で駆けて行かれました』

『なんたることか 105
なぜ先にこちらに告げぬのか
我が領地ではハーデンの者たちが
自由に狩りをすることは許されているのに

『我が白馬に鞍を置け 110
急げ 今すぐに
ヤローの堤に急ぎ行こう
勇敢なハーデンに会いに行こう』

「サンドホープではエニシダの茂みに
ジョックを見つけたアダムは
恐ろしい形相で 115
襲い掛かった

『裏切り者の悪党め
妹を捨てただけでは飽き足らぬのか
なぜか弱い雌羊を怖がらせ
子羊を追い回す 120

『おまえの猟犬は森でほえたてて
選りすぐりの鹿を殺してしまった
何百頭が群れなしてスチュアートの丘に逃げ
もう戻りはしないだろう』

『傲慢な若僧よ 125
俺に悪態ついて気が済んだか

おまえだってハーデン家の土地で狩りをしても
とがめられたことなどないだろう』

『妹ジーンと結婚するのかしらないのか
ここで白黒はっきりさせようではないか』 130

『そんな責めは筋違い
おまえに答える義理はない

『誓って言うが
おまえやおまえの家族には何の悪意もなかった』

こう言うと馬に拍車をあて 135
鹿より速く走り去った

「ジョックは角笛を口に当てると
高らかに吹き鳴らした
陽気な仲間たちへ
狩りの中止の合図だった 140

『戻ってこい 裏切り者の悪党め』
アダムは声の限りに叫んだ
『ハーデン家の傲慢なスコットランド人に
居丈高に物を言われる覚えはない

『剣を抜くか ここで誓うか 145
二つに一つだ
おまえの面目をつぶしてやる
この腰抜けの悪党め』

「アダムは黒い馬から飛び降りて
枝につないだ 150
それから縁なし帽を投げ捨てると
手になじんだ剣を抜いた

「長く激しい闘いだった
互いの剣が合わされた
血の雨が降り 155
草も赤く染まるまで

「長く激しい闘いだった
どちらも一歩も譲らなかった
アダムの両の腿も

- ジョックの胸も血に染まった 160
- 「アダムは勇猛果敢だったが
それ以上は耐えられず
重い剣に体を預け
膝は枝のようにくずおれた
- 「樫の木にもたれると 165
もうそれ以上は動けなかった
その時木こりがエニシダの茂みから飛び出して
ジョックの心臓をひと突きした
- 呻き声すらあげず ジョックは振り返りざま 170
木こりの頭を真っ二つに叩き割り
それからジョックは草の上に横たわり
もう動くことはできなかった
- 「わしは山を越え 谷を越え
風よりも速く駆け
森中に声を響かせたが 175
応えるものはなかった
- 「わしがたどり着いて 目にした光景は
石の心も溶かすだろう
弟アダムが深傷を負って 血を流し
若者ジョックは虫の息 180
- 『そこにいるのか ギルマンの溪谷の主よ』
震える声でジョックは叫んだ
『もっと早く来ていれば
こんなことにならずにすんだのに』
- 『お前の妹ジーンをよろしく頼む 185
たとえ何が起ころうとも
今宵ギルマンの溪谷で
私の花嫁にしようと思っていた
- 『しかしこの悲しい騒ぎ 運命のいたずらは
悲惨な結果をもたらすだろう 190
勇敢な兄たちは
復讐を果たすまで黙りはしまい』

「木こりをサンドホープのエニシダの木陰に
穴を掘って埋め
若者ジョックはハーデン家の墓に運ばれ
一族と共に葬られた

195

「これがあの若者ジョックの死に様だった
その腕は鋼のようで
そのまなざしは真実そのもの
その心根は誠実で忠実だった

200

「あの不幸な日から
今日でちょうど三十三年
つい先ごろジョックの遺体を見たのだが
少しも朽ちてはいなかった

「胸の上には色とりどりの花輪が
色褪せることなく飾られて
足元には薔薇が
今が盛りと咲いていた

205

「わしは家臣を一人残らず養った
苦労も苦痛も顧みず
ハーデン家の怒り狂った息子たちと家臣とが
攻め込むかもしれぬとおびえながら

210

「老ハーデンは狡猾で
抜け目のない男だった
息子たちを堅固な牢に押し込むと
鍵を肌身離さず持っていた

215

「それから我々のいる
ホーリールードへやってきた
幅広の帯のような帽子をかぶり
髪はクレイグホープの雪のように白かった

220

「上着は森の緑色
ボタンは月のように輝いた
乗馬ズボンは上等で
美しい鹿革でできていた

- 「首から下げた両手使いの剣は
足元でガチャガチャと音を立て
立派な銀の拍車には
ヨークシャー産の歯車がついていた
225
- 「長靴下は鉄の鎖と
房飾りで飾られ
230
一步一步 歩くたび
王宮の門に轟いた
- 「堂々とした体躯
射竦める様な眼光
老ハーデンの帽子が目に入るだけで
235
召使たちは道をあけた
- 「北の貴族たちには
老ハーデンは好ましく映った
体つきも眼差しも
240
とても堂々としていたから
- 「老ハーデンは王に直訴して
一族の行為をたたえた
あろうことかバックローも
老ハーデンに加勢した
- 「我々の美しい領地の全てを
245
王は老ハーデンに与えてしまった
ギルマンの溪谷のスコットランド人は
ことごとく無法者とみなされた
- 「こんな悲しみが降りかかるとは
全く思いもよらなかったが
250
親切なトランクイアが
すぐに国を出よと教えてくれた
- 「さもないとわしも一族も味方を失い
むざむざやられるだけだろう
255
弟アダムは回復が遅く
旅には耐えられそうにもなかったが
- 「わしは見知らぬ土地で戦い

多くの血を流したが
生まれ故郷のあの丘を
死ぬ前にもう一度見たいもの 260

「弟アダムはハンガリーで息絶えた
共に戦うわしの傍らで
哀れな妹ジーンは息子を産むと
悲しみのあまり命を落とした

「その息子こそ 今やわしの唯一の慰め 265
身のこなしも体つきも立派な男
あなたによく似た眼の 同じ血が流れる息子
わしの血が流れるのと同様に

「わしは哀れな^{じじい}爺にすぎぬ 270
誰からも顧みられることはない
墓に入れば労苦もすべて忘れよう
その日もすぐに訪れよう」

私のお金はこのおじいさんにあげたのよ
新年に手に入れたあのお金
ハーデンの城で
しばらく一緒に過ごしましょうとお誘いしたの 275

可愛いペギー 私の娘
いつまでも愛しい私の宝
おまえの手放した金は
三倍にしておまえにあげよう 280

ギルマンの溪谷の御老人を
食事の席にお招きしよう
あの雄々しい闘いの話を
近く遠く触れ回ろう

私の哀れな弟ジョックの息子 285
おまえによく似た眼の 同じ血が流れる息子には
ギルマンの溪谷の土地をまかせよう
ハーデン家が治めている限り

地代も卑しい仕事も
決して要求するものか 290

ただ私の右腕となるべく
ブランクホルムの招きに応じてほしい

スコットランド人は互いに助け合うものだ
落ちぶれてしまったときには特に
誇り高く生きるものは
土地の歴史を知らねばならぬ

295

(鎌田明子訳)